

トピックス

清新鶴の会が「ふれあいまつり」で表演

江戸川区の清新鶴の会（指導； 蒨澤徹師範）は、5月12日（日）に開催された第31回「清新町・臨海町ふれあいまつり」で、楊名時太極拳の表演【写真右】を行い大勢の観客から暖かい拍手をもらいました。この催しは



【写真上は近くの緑陰での事前の練習風景】

清新町緑道公園を会場として関係自治体、各自治会、地元の学校、諸団体などが共催で開くもので、様々な催しやたくさんのお店が出る、この地域の大イベントです

が、今年も五月晴れの好天にも恵まれて、従来にも増しての賑わいでした。清新鶴の会では毎年このお祭りに参加していますが、今年も応援チームを含めて20名以上が参加しました。



| 1

江戸川区の教室交流会が行われました

5月19日（日）に第3回の江戸川区教室交流会が、13教室から約140名が参加して10時から12時まで、盛大に開催されました。全員での準備運動、立禅、八段錦、二十四式太極拳演舞の後、13教室を3グループに分けての不老拳演舞を行い、最後には百花拳を再び全員で舞って楽しく交流しました。【写真上下とも蒨澤理事撮影】



また、土田亮東京都副支部長・北地域担当（江戸川区総合体育館教室指導）が開会のご挨拶をされましたが、その中で5月31日開催の東京都支部総会において、松浦美恵子師範（現・江戸川区代議員）が東京都支部理事に選任されること、ならびに、松浦師範に代わって宇留野良子師範（サークルしの指導）が



江戸川区代議員に選任されることが発表されました。たがって、今後は茶木登茂一と宇留野良子が江戸川区代議員を務めることとなりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



『太極』誌第200号が刊行されました

日本健康太極拳協会の会報である『太極』誌の第200号記念号【左の写真】が発行されました。この『太極』誌は、1977年9月に創刊され、その後年6回の定期発行を重ねて、ついに本年5月25日発行号をもって200号に達したものです。まさに楊名時健康太極拳の歴史の集積ともいえるものです。

小生も協会の広報・機関紙委員会の一員として多少のお手伝いをさせてもらっておりますが、今号については中野完二委員長のご指名で、『「太極」200号の歩み』を編纂させていただきました。お蔭さまで、創刊号からすべてを読み返すという得がたい経験をさせてもらいましたが、今更ながら楊名時師家の足跡の偉大さ、また諸先輩の方々のご活躍の歴史、に改めて深い感銘を受けました。

ということで、先号から『左顧右眄』欄では第15話として“楊名時師家の名語録をひもとく”を連載するようになりましたので、引き続いてぜひお読みくださるようお願いいたします。

江東区でも教室交流会を計画

江東区の楊名時健康太極拳教室が集って以下のとおり教室交流会を開く計画が進行中です。これは江東区区代議員の鶴岡睦子師範と森全子師範が計画されたもので、近日中に正式に各教室指導者へ案内状が出される予定と伺っています。

日時； 9月14日(土)10時から12時まで

場所； JR亀戸駅前の「亀戸文化プラザ（カメラプラザ）」

支部のHP内の教室案内によると、江東区には現在登録教室が12ありますが、このような交流会を開くのは今回が初めてのことで、たいへん楽しみです。私の担当する亀戸スポーツセンター教室と東大島鶴の会の皆さん、ふるって参加いたしましょう。

閑人閑話

「放・乱・収・死」

「放・乱・収・死」という言葉をご存知でしょうか。じつは今から50年以上前の、昭和35～6年ごろに、中国通のベテラン商社マンから教えてもらった言葉で、“中国の政治とか経済とかの変化はすべてこの原則で動いているので、知っているるとたいへん便利ですよ”ということでした。

当時、鉄鋼メーカーの海外営業部門に所属していたこともあり、また組合運動の活動家でもあったので、あらゆる意味でそのころの中国の動向にはたいへん深い関心をもっていました。毛沢東率いる建国間もない中国が、百花斎放だとか、反右派闘争だとか、大躍進政策だとか、その失敗で毛沢東が批判を受けたとか、目まぐるしいほどの変動が続いたころの話です。

当時は中国最良の人も、共産党を毛嫌いしている人も、このような激動を正確に分析できずに、また情報そのものも少なかった時代ですし、“群盲象を撫でる”がごとき意見が飛び交っていたのですが、百花斎放とそれに続く反右派闘争も、「放・乱・収・死」に当てはめてみると、「解放的な政策を取り入れると、行き過ぎて必ず乱れる、そうすると収める力を強力に働かせて、結局元に戻ってしまう」というふうに関に明快に解釈することが出来ました。(実は、毛沢東による右派勢力あぶり出しのための巧妙な仕掛けであったというのが、最近の定説ですが。)

この言葉は、その後も中国事情の分析に折に触れて役立つばかりではなく、周期的に訪れる世界の景気変動や市況動向などを見極めるうえでも、その後長い間鋼材の海外営業に携わった私には、たいへん重

宝した“魔法のこぼ”でした。景気が良くなって市況がどんどん上昇しても、“もうそろそろ山が来るなあ”とか、逆に市況がどん底のときでも、“そろそろ転換期が来るぞ”などとひそかにその先の対策、対応を考えていたものでした。この言葉を今でも忘れていない所以です。

ところで、漢詩や演歌などの構成法として知られている「起承転結」という四文字熟語も、よく考えてみると同じ事の異表現であると思いますし、さらに言えば太極拳をやる我々におなじみの「陰陽」も同じかと思います。

“陽極まれば陰に転じ、陰極まれば陽に転ず”とは、単に太極拳の動きの奥義を説いているのではなく、宇宙のすべての事象の根本原則をたった二文字で言い表しているところに、その深遠さがあるということだと思います。

左顧右眄 (72) 【第15話 楊名時師家の名語録をひもとく】

その2 「坐為己、立為人」

(1983年3月 第19号)

今回は師家が1983年2月に関西方面を訪ねられたときの一文です。師家の仏教についての深い想いと、社会に対する真摯な姿勢がしのばれる一文ですので、ちょっと長くなりますが、まずご紹介します。

『勤務先の大東文化大学の大学入試の試験監督などもしたが、それも終わって一段落したので、2月15日から京都に行った。前から神戸の祥福寺の河野太通老師【写真右】とお約束をしていた、臨済禅宗祥福寺専門道場の雲水さんたちと一日太極拳を稽古するためである。……15日の日には、ニュースで、清水寺の貫主、大西良慶師が107歳で亡くなられたことを報じていた。山下(頼充・紀子)さんの五つ子の名づけ親であり、仏教界の最長老であられた。京都では良慶はんと愛称されていたようだ。……

毎日うまく食べ、うまく寝て、うまく働くこと、腹立てぬことが長寿の秘訣と言われていたとのこと。……しかし、わたしは、かねがね大西貫主のおっしゃられた「日々感謝して生きる」「心を鍛えて知恵を磨く、これぞ人生」と言った言葉にとくに感銘を受けていた。私ども太極拳を学ぶものも、日々感謝してお祈りの太極拳をしたいものだと思う。

祥福寺では久しぶりに河野太通老師に迎えられる稽古だった。太極拳の指導というよりも、私としては禅の勉強を兼ねて、皆さまともども研究会をしたようなものだった。……

奈良の唐招提寺では、鑑真和上のお墓のそばでいつものとおりで稽古してきた。……

宇治の黄檗山萬福寺へも行った。一度稽古した後、豆腐ようを賞味した。これは開祖の中国の隠元禪師が伝えた手法で作られたもので、よそでは味わえない珍味である。豆腐のチーズと言ったらいいだろうか。

萬福寺の境内には「坐っては自分を調べ、立てば人に尽くす」という“今月の教えの言葉”が書かれていた。これは中国語に意識をすれば、「坐為己、立為人」となる。

前に山田無文老師が書かれた本のなかに、「我為人人」という言葉があったのを思い出すし、こんなふうに訳してはどうかと思った。この本も、河野太通先生に以前いただいたものである。

「坐っては自分を調べ」——この「調べ」は、禅の三調の調身、調息、調心——つまり、自分自身を調べておくこと。「立てば人に尽くす」の「立てば」は、言いかえれば、立って動けばということ。働けば人のために役立つように努力することである。

とても簡潔で、いい言葉であるから、皆さんも心にとどめておいてもらいたいと思う。……』

若干、登場人物などについて補足します。河野太通老師は師家の古くからの太極拳のお弟子さんで、最



古参の師範のおひとり、かつ終生変わらぬご親友でした。現在は臨済宗最大の宗派である臨済宗妙心寺派管長で、前全日本佛教会会長、前花園大学学長などの経歴をお持ちの方です。山田無文老師の一番弟子としても有名です。ちなみに“白隠—河口慧海—山田無文—河野太通”と続く禅門の人脈については、「雲の手通信」2006年12月第30号で、「禅と太極拳」と題して記述しておりますので、ご参照ください。

清水寺の**大西良慶老師**については、日本初の五つ子に観音経からとった名前を付けたことで有名な方、昭和51年(1976年)、老師100歳の時のことです。その五つ子、福太郎さん、壽子さん、洋平さん、妙子さん、智子さん、もすでに37歳、それぞれにいろいろな分野でご活躍されておられるようです。

それにつけても、師家の信仰心の篤さにはただただ感じ入るばかりです。

【お詫び；前号で『太極』誌の発行を年4回と書きましたが。たゞしくは年6回、隔月発行ですので、お詫びして訂正いたします。】

旅をうたい拳を詠む 花の季節

風騒ぎ躑躅は歌うつつじ 櫻木けやきぎの

新芽は叫ぶ五月は近しと

【右；躑躅（わがマンションの植え込み）】



はつなつの風に揺れつつ大藤は
甘き香りを四方に放てり

長藤の幕を引き開け艶然と
あや子が覗く白昼夢かな

【左；大藤（足利フラワーパーク）】

こまくさ属の鯛釣草に異名あり

華鬘草けまんそうとも流血心臓ぶりーでいんぐはーととも

桃色の鯛が八匹掛かったぞ
鯛釣草は重げにしなう

【右；鯛釣草（足利フラワーパーク）】

